

IV スキルアップ研修

1 本センターの職員の現状と課題

本年度、本センターの職員で研修指導に関わるのは11人であるが、その内、青少年社会教育施設への赴任が初めてという職員は8人を占める。また、新型コロナウイルス感染症の影響で利用団体数が激減したため、活動プログラムを担当して展開する機会が少なく、2年目以降の職員にとっても思うようにスキルアップが図られていないという現状にある。

2 スキルアップ研修の必要性

利用団体が、有意義であったと満足感を得られるためにも、職員の資質向上は必要不可欠である。本センター職員の業務内容は研修指導以外にも多岐にわたっており、不規則な勤務状況の中、新任者であっても高い指導のスキルが必要とされる。そこで、OJT形式で行われる自主的な研修を行いながら、本年度も計画的に研修を実施できるよう研修課全員が揃う出勤日に、「スキルアップ研修」を実施することとした。

研修内容については、センター職員の実態や研修課職員のアンケート等を基に設定した。また、研修の講師は、職員を計画的に割り振って行った。

3 スキルアップ研修の実施内容(年度当初13回を予定していたが、特別編を3回追加して実施)

回	月	日	研修項目	研修内容等
1	4	11	プログラム指導の習熟	・野外炊事と食堂利用(食材受渡し)
2		17	施設の管理	・環境整備のための農作業機械の使い方
3	5	7	プログラム指導の習熟	・テント設営・撤収のコツ
4		24	プログラム指導の習熟	・光学機器等の使い方
5	6	7	専門職員としての知識	・チラシの作り方のコツ
6		21	専門職員としての知識	・フィールドワーク(センターで見かける植物)
7	7	12	専門職員としての知識	・主催事業で使える野外調理メニュー
8	8	6	プログラム指導の習熟	・レクリエーションについて
9	9	9	プログラム指導の習熟	・陶芸①
10	10	25	専門職員としての知識	・電動工具の使い方
11	12	6	プログラム指導の習熟	・文化創作活動演習「クリスマスリース」作り
12		10	プログラム指導の習熟	・文化創作活動演習「正月(門松)飾り」作り
13	3	9・11	専門職員としての知識	・フィールドワーク(吉田麓の地理と歴史)
特1	9	9	プログラム指導の習熟	・キャンプファイヤーの指導について
特2		13	プログラム指導の習熟	・光学機器等の使い方Ⅱ(実践編)
特3		21	プログラム指導の習熟	・陶芸②

4 スキルアップ研修の実際

【スキルアップ研修1】

野外炊事と食堂利用（食材受渡し）

1 ねらい

本センターの活動プログラムである野外炊事の指導ポイントを共通理解するとともに、食堂利用（食材受渡し）の流れを確認する。

2 期日

令和2年4月12日（日）

3 研修内容

(1) 野外炊事の集合場所と準備について

事前にどのような準備が必要か、場の設定を本番と同様に設置して、全員で共通理解した。

また、研修生の人数や天候に応じて、集合場所などの設定が変わることについて確認した。

(2) 炊事活動の仕方について

3つの係（食器係・食材係・かまど係）の役割を実際に指導する形式で流れを確認した。それぞれの役割における指導のポイントの共通理解を図った。特に今回は、食材の受け渡しを実際に食堂へ出向き行うことで、留意事項等について確認した。

(3) 片付けについて

食器庫での食器等のチェック方法や生ゴミと燃やせるゴミの分別、まき倉庫の整理など、それぞれの係の片付けの仕方について確認した。

4 職員からの感想

- 指導のポイントをしっかりとおさえて、利用者に分かりやすく指導できるようにしたい。
- 自分に何ができるのかをよく考え、サポートができるようになりたい。

5 成果と課題

- キャンプ場の利用や野外炊事に係る留意事項について共通理解ができたことは、安全・安心な研修活動を進める上でも有意義な研修であった。
- 食材受け渡しなど実際に確認できたのはよかった。
- 実際に経験を積むことでしかスキルが高まらない。他の職員の指導を見て、研鑽を深める必要がある。



研修資料



各係の役割について



炊事活動の様子

環境整備のための農作業機械の使い方

1 ねらい

本センターで所有する農作業機械の操作方法やメンテナンス、取り扱い方を習得し、安全に効率よく環境整備に従事できるようにする。

2 期日

令和3年4月17日（土）

3 研修内容

- (1) 乗用草刈り機（ラビットモアー）の実際
 - ・ 乗用草刈り機の安全な使い方やメンテナンスについて学んだ後、効率的な使い方について実際に操作して体験した。
- (2) 草刈り作業の主な事故原因
 - ・ 安全な刈払機の使い方を習得すると同時に、起こりうる事故についての認識を深めた。
- (3) 燃料の計量と記載
 - ・ 使用した燃料の種類と計量の方法、記載の仕方について共通理解を図った。

4 職員からの感想

- 安全に気を付けて取り扱うことが大切だと改めて感じた。
- 扱う機械は、県の備品であることを意識して、大切に扱いたい。
- 2年目以降の職員にとって、学び直しの機会となった。

5 成果と課題

- 年度当初に、最も作業効率の良い乗用草刈り機の使い方を学んだことで、環境整備が滞ることがなくなった。
- 機械の整備まで意識して作業を行うことで、より安全に環境整備ができることを職員が理解することができた。
- 本センターには、チェーンソーやエンジンプロワなど多くの種類の農作業機械がある。それぞれについて、安全で正しい使い方を改めて研修する必要がある。
- 機械の整備やメンテナンスだけでなく、不具合の修正や修理ができることで、さらに効率性や安全性が高まると思われる。



乗用草刈り機の取扱



研修資料



乗用草刈り機の整備

テント設営，撤収のコツ

1 ねらい

主催事業や受入事業等でテント設営・撤収，寝袋の使用法を指導するポイントについて，職員のスキルアップを図り，安全且つ効率的な指導方法について学ぶ機会とする。

2 期日

令和3年5月7日（月）

3 研修内容

(1) テント設営

テント設営を行う際の手順や，ポールを差し込むときのコツや安全面において気を付けるポイントなどを確認した。

(2) テント撤収

テント撤収を行う際の手順を確認した。また，インナーテントをたたむ際には，中の空気を抜くために，ファスナーを一部分開けておくことや，スムーズにバッグに収めるための工夫等について確認した。

(3) 寝袋の使い方

センターが所有している寝袋の種類について確認した。使用頻度が高い寝袋について，使い方やシーツの組み合わせ方の確認を行った。

4 職員の感想

- ポールを取り扱う際に，体の向きを工夫することで安全に設営できることが分かった。
- テント設営の説明の手順については，機会を見つけて研修を深め，指導法を定着させたい。

5 成果と課題

- 全員でテント撤収・設営，寝袋の使い方について共通理解を図るよい機会となった。
- センターには通年で使用する寝袋の他に，防寒用の厚手の寝袋もあることを周知でき，今後の主催事業等で，時期や目的に応じた活用につながった。
- 寝袋やテントの不具合について，その原因と補修の仕方等についても共通理解を図る必要がある。



テント設営の様子



テント撤収の様子



寝袋の使い方の確認

光学機器等の使い方

1 ねらい

本センターの野外活動及び自然観察の活動プログラムである星の観望について、「天文シミュレーションソフト」の活用と天体望遠鏡操作の共通理解を図る。また、オリエンテーリングで使用するコンパスの使い方の指導について再確認を行う。

2 期日

令和3年5月24日（土）

3 研修内容

(1) 「ステラナビゲーター」の活用

本センターの経緯と標高を初期設定画面で入力し、年月日時刻の設定の仕方を確認した。さらに、恒星・星座・惑星・衛星の表示設定や皆既月食など天文現象や星空自動解説番組等の機能を確認した。

(2) 天体望遠鏡操作

望遠鏡の基本的な構造と名称を確認し、赤道儀の極軸合わせの方法を確認した。

天候不良のため、実際に天体望遠鏡を使って遠方を観察することはできなかったが、双眼鏡を活用して研修を行った。

(3) コンパス

オリエンテーリングで使用するコンパスの使い方の指導について確認した。地図にコンパスを合わせ、実際の方角や目的地までの距離等を見付ける方法について確認した。



ステラナビゲーターの説明



研修資料



コンパスの研修の様子

4 職員の感想

- 天体望遠鏡は、普段から時間を見付けて、使い方を確認することで星空観望時の指導に生かすようにしたい。
- オリエンテーリングの地図の見方やコンパスを使うことの意味を指導する大切さを知った。

5 成果と課題

- 「ステラナビゲーター」は、雨天時のみならず事前研修にも役立つことが分かった。今回の研修で「ステラナビゲーター」の効果的な活用を確認できた。
- オリエンテーリングで使用するコンパスの使い方の指導方法について研修できた。研修生にコンパスを使用させる意味について共通理解ができた。
- 天体望遠鏡は時間を見付けて実際に使い、自己研鑽を深めていく必要がある。

チラシの作り方のコツ

1 ねらい

本センターでは、チラシを作成し、主催事業の広報を行っている。しかし、多くの職員が、チラシを作成した経験が少なく、作成について不安を抱えている。そこで、広報の効果を高めるためにも、チラシを作成する基本的な考え方を学び、職員が自信をもってチラシを作成することができるための機会とする。

2 期日

令和3年6月11日（金）

3 研修内容

(1) 講義「チラシ作りのコツについて」

作成の前段階で「誰に」、「何を」という相手意識や目的意識をもつことやテキストのフォント、サイズ、色の効果、写真やイラストの活用の仕方、視線の動きを意識したレイアウトなど、チラシ作成時のポイントについて理論的に学習した。

(2) 演習「チラシ作成に挑戦！」

チラシ作成の演習を行った。講義で学んだこと以外にも、これまでのチラシ作成の経験で培った知識を出し合いながら、工夫して演習に取り組んだ。



主催事業のチラシ



演習に取り組む職員の様

4 職員の感想

研修資料の抜粋

- 「光彩」の使い方を初めて知ったので、今後のチラシ作成に生かしていきたい。
- 誰が見るのかを意識しながら言葉を選ぶようにしたい。小学校低学年に向けたチラシと高学年に向けたチラシでは、使用する言葉も変わってくる。
- チラシ作成にあたっては、人権に配慮する必要がある。素材の選定、文字のフォントやサイズ、色の設定など、受け取る側を意識して作成するようにしたい。

5 成果と課題

- チラシ作成にあたって、フォントや写真、レイアウトについての基本的な考え方を共通理解することができた。
- 演習では、講義の内容に基づいてチラシ作成に取り組むことで、テキストに効果を加えたり、写真やイラストを加工したりすることを実践的に学ぶことができた。
- 現状では、過去の主催事業のチラシを参考にしながらチラシを作成することが多い。テキストの項目や言葉の使い方等、主催事業の内容に応じて適切なものになるよう、見直しをしていく必要がある。

フィールドワーク（センターで見かける植物）

1 ねらい

フィールドワークを通して、センター内の植物について学ぶとともに、五感を通して自然を感じる活動を体験することで、木や草花など身近な自然に目を向け、自然の多様性を観察し、確認を行うとともに、職員のスキルアップを図る。

2 期日

令和3年6月21日（月）

3 研修内容

センター内に自生している植物の名前や葉の形状、花の色や形など、違いや特徴を学ぶために植物の観察活動を行った。

直接、自分の目で見て、手で触れ感じる体験活動を通して、自然の仕組みや規則性を見付け出し、実感をもって理解する機会となった。



研修資料

4 職員からの感想

- 施設周辺の自然環境について、具体的に学ぶ機会は大変有意義であった。植物の名前をその由来から知ることによって、自然への興味が沸き、自然を見る視点が変わってくる。
- ふだん歩いたり、活動したりする場所にも多様な植物が息づいていることに改めて気付いた。これからは、視野を広くして植物を観察していきたい。



記念樹園での活動

5 成果と課題

- 形、大きさ、色、においなどを手がかりに観察し、類似点に注目して仲間分けすることで、法則性を発見したり、自然の営みを理解したりするよい機会となった。
- 野外での植物の観察活動を通して、自然に対する興味をもたせることで、自然の中で活動することの楽しさや面白さを再認識するよい機会となった。
- 開花時期でない、葉の形等が非常に似ているなど、特定の難しい植物について専門的に学ぶ場も必要である。



管理棟前での活動

主催事業で使える野外調理メニュー

1 ねらい

野外調理の様々なメニューを、実際に調理を行うことで、職員のスキルアップを図り、家庭・地域連携事業や子どもいきいき体験事業などの主催事業における野外炊事の充実を図る機会とする。

2 期日

令和3年7月12日（月）

3 研修内容

(1) 調理方法の紹介

身近な素材である段ボールを用いたピザ作りや、複数人が同時にかつ個別に調理ができるお湯ポチャクッキング、飯ごうを用いたパンやカレー作りなどを紹介し合い、様々な調理方法があることを確認した。



職員研修の様子

(2) 調理活動

気付いた点や疑問点をその場で確認し合いながら、様々な調理法を実践した。



お湯ポチャクッキングの様子

4 職員の感想

- 新型コロナウイルス感染症対策を考えながら野外調理を行う場合に、お湯ポチャクッキングは大変有効であると感じた。
- 飯ごうの内ぶたを活用することで、ご飯とカレーが同時に調理できることが分かった。ご飯を炊くタイミングは今後も検討する必要がある。
- 飯ごうによるパン作りは、これまでにないメニューなので、新鮮さがあった。



飯ごうによるパン作りの様子

5 成果と課題

- 様々な野外調理を知ることで、主催事業の対象に合わせたメニューの選定の幅を広げることができた。
- 主催事業の参加者に的確に説明できるように、事前に職員が研修を積み、コツをつかんでおく必要がある。

レクリエーションについて

1 ねらい

本センターの活動プログラムや出前講座等で行われるレクリエーションの体験を通して、留意事項や指導時のポイント、安全面等の共通理解を図り、スキルの向上を図る機会とする。

2 期日

令和3年8月6日（金）

3 研修内容

(1) レクリエーションとは

レクリエーションの機能や効用、活動内容について理解するとともに、指導の場を想定し、共通理解を図った。

(2) レクリエーションの実際

職員指導マニュアルのレクリエーションの選び方や順番等について確認を行い、レクリエーションを行う際の注意事項や安全面の指導についても共通理解を図った。

また、「パイプライン」の実技研修を行い、ゲームを通して、共感・共有したことや、集団の中で他者とよりよく関わるために自分はどうあればよいかなど、感想を共有した。



「パイプライン」実践の様子



研修資料

4 職員の感想

- レクリエーションを行うにあたっての留意点や活動の流れを考えながら、プログラム展開に努めていきたい。
- 既存のレクリエーションをベースに、新たなレクリエーションの情報収集を進めていきたい。
- 指導者が楽しまないと、魅力が伝わらず効果も半減してしまう。大袈裟なくらいのパフォーマンスが有効である。

5 成果と課題

- レクリエーション1と2では、対象者やねらいが違うことを確認できた。活動プログラムの展開例を紹介することで、場の想定や留意点等を全体で共通理解することができた。
- シェアリングでは、いろいろな意見やアイデアが出されたり、これまでの経験からの実体験も聞くことができて、とても勉強になった。
- 効果的なレクリエーション活動を展開していくために、研修団体の指導者との事前打合せを通して、共通認識をもつ必要がある。また、参加者の気付きや考えを引き出すような問いや、振り返りの時間を十分確保することが重要である。



感想のシェアリング

陶芸①・②

1 ねらい

本センターのプログラムの1つである「陶芸」は、陶芸団体が自主研修で行うことがほとんどであるため、ほとんどの職員に指導の経験がない。そこで、作陶から釉薬がけまでの一連の活動を体験したり、灯油窯の使用法について学んだりすることを通して、陶芸について知り、自信をもってプログラムの指導にあたることができるようにする。

2 期日

①令和3年9月9日（木） ②9月21日（火）

3 研修内容

(1) 研修①「プログラム『陶芸』について／演習『作陶』」

「成形→乾燥→素焼き→釉薬がけ→本焼き」という完成までの一連の流れや陶器と磁器の違いなどについて講義を行った。演習の作陶では、手びねりや板づくり（たたら）に加え、ろくろを用いた成形など、職員が思い思いに作品作りに取り組んでいた。

(2) 研修②「素焼きと本焼きについて／灯油窯の使用について／演習『釉薬がけ』」

焼き上がった素焼きの作品を用いながら、素焼きと本焼きの違いや灯油窯の使用法、本センターが保有している釉薬の種類や釉薬のかけ方などについて講義を行った。演習では、焼き上がりの色をイメージしながら、各自の作品に釉薬がけを行った。

※ 後日、担当が本焼きを行う際、他の職員も窯の操作を学んだり、窯内部の様子をのぞき穴から見たりした。



ろくろを用いた成形



釉薬がけ



灯油窯の使用法についての研修

4 職員の感想

- 難しく考えていたが、実際に作陶から釉薬がけまでを体験することで、陶芸の楽しさを味わうことができた。
- 担当者以外は、なかなか陶芸に携わることがないので、制作の流れや窯の使用法などについて知ることができてよかった。

5 成果と課題

- 作陶から釉薬がけまでの体験をすることで、陶芸の魅力に気付くことができた。また、指導する際のポイントや灯油窯の使用法についても共通理解を図ることができた。
- 陶芸のよさを発信することで、プログラム指導に入る機会を増やしていきたい。

電動工具の使い方

1 ねらい

文化創作活動や野外活動施設の補修、主催事業の準備などで使用する電動工具の正しい使い方を学び、実際に使用することで職員のスキルアップを図り、正確・安全且つ効率よく作業できるようにする機会とする。

2 期日

令和3年10月25日（月）

3 研修内容

(1) 電動工具の特徴

電動工具を使用するときの心構えや注意点について確認した後、本センターにある電動工具12種類について資料をもとに実際に動かしながら、特徴や正しい使い方を1つずつ確認した。

(2) 使い方実習

実際の使用場面を想定し、ディスクグラインダによるスチール缶の切断や面取り、丸鋸やジグソーによる木材の切断などを行った。

4 職員の感想

- 自己流で使っていたので、正しい使い方がわかってよかった。
- 電動工具を使おうと思っても、使い方や特性が分からなくて消極的だったが、一緒に学びながらその場で質問もできたのでとても有意義だった。
- 本所にこれだけ多くの電動工具があることがわかり、活用することで正確にしかも効率よくできることがわかってよかった。

5 成果と課題

- 電動工具の正しい使用方法のポイントを1つずつ学ぶことで、安心・安全な扱いができるようになった。
- センターの備品である電動工具を一堂に集めることで、それぞれの電動工具の特徴を比較しながら実体験できた。また、それぞれの電動工具の安全点検のよい機会となった。
- 電動工具の手入れの仕方や安全点検についても研修を深めていく必要がある。



職員研修の様子



ドリルビットの交換



ディスクグラインダによる切断

文化創作活動演習「クリスマスリース」作り

1 ねらい

主催事業「自然素材で作るクリスマスリース・ミニリース」の事前研修として、自然素材採取場所、クリスマスリース作りの手順や制作ポイントの確認を行うとともに、職員のスキルアップを図る。

2 期日

令和3年12月6日（月）

3 研修内容

(1) 自然素材採取場所の確認

事業当日に採取するかずらやヒイラギ等の採取場所を確認し、実際に採取した。

(2) クリスマスリース・ミニリース作りの実際

採取した自然素材を使って、作成の手順を確認した後、実際にリース作りを行った。それぞれの作業を職員自身が体験したことで、制作のポイントや支援の仕方など職員同士で話し合う機会になった。



使用する自然素材の確認

4 職員の感想

- 実際にリースを作る中で、とげのある自然素材を扱うことで、安全に取り扱うコツをつかみ、慣れることができた。
- 森の中に入って自然素材を集める体験については、さわった感触だけでなく、匂い等も楽しむことができ、自然の豊かさや素晴らしさを味わうよい機会となった。
- 最初に完成のイメージをもつことが大事だと感じた。



自然素材の採取

5 成果と課題

- センター内を植物を探しながら散策したことで、センターの職員が改めて自然の豊かさを知るよい機会となった。
- 実際にリース作りを体験したことで、参加者への支援のポイントを知る機会となった。
- 様々な種類のリースを作ったことで、参加者のアイデアを豊かにすることができる見本が集まった。
- 自然素材集めについては、センターの広い敷地の中で、より安全にゆっくりと集めることができるように採取場所や時間を設定する必要がある。



リース作りの実技研修

文化創作活動演習「正月飾り（門松）」作り

1 ねらい

主催事業「家族で楽しむ正月飾り」の事前研修として、正月や門松に関する学びを深めるとともに、実際に門松を作りながら、手順や制作のポイント、安全面への配慮事項等を確認し、職員のスキルアップを図る。

また、竹切断補助具（「斜切っと君」）の活用と縄の結び方について考察する。



「斜切っと君」の活用

2 期日

令和3年12月10日（金）

3 研修内容

(1) 門松の由来について

資料をもとに、門松の由来や装飾物の意味や飾る期間等について学びを深めた。

(2) 門松作りの実際

主催事業当日の制作手順に沿って、実際に作りながら手順や制作のポイント、安全面への配慮事項等を確認した。途中、竹切断補助具（「斜切っと君」）の活用と縄の結び方の工夫についても学びを深め、スキルアップを図った。また、ビニールテープを利用した竹切断をやめ、全職員とも竹切断補助具（「斜切っと君」）を使用したこと、シュロ縄を使用し結び方を簡略化したことで時間短縮が図られたため、主催事業で展開することを決めた。ただし、参加者から尋ねられたときのことを考えて、飾り結びはできるように研修した。



縄の結び方の講習

4 職員の感想

- 門松の由来などを学んだことで、しっかりとした知識となり、当日参加者に説明できる。
- 竹切断補助具のおかげで、参加者は達成感を味わえ、制作時間の短縮につながる。
- 作ること自体が、貴重な経験になる。けが等につながらないように注意したい。



職員研修で作上げた門松

5 成果と課題

- 門松の由来や装飾物の意味、飾る期間等について学びを深めたことで、参加者の質問に対応できるようになった。
- 制作工程を実体験したことで、支援のポイントを共通理解することができた。
- 研修で作上げた門松は、一定期間玄関入り口に掲示したので、来所者の興味を引くことができ、主催事業当日の見本としても参加者の参考とすることができた。

フィールドワーク（吉田麓の地理と歴史）

1 ねらい

吉田麓集落周辺のフィールドワークを通して、吉田麓の地理的要因や歴史的背景について学ぶとともに、実際に郷土の貴重な史跡に触れることで、郷土への愛着をさらに深め、貴重な文化財を次世代に引き継ぐ大切さや、知的好奇心を深める。

また、主催事業等への研修活用ができないか、職員で検討する機会とする。



本城花尾神社・仁王石像

2 期日

令和4年3月9日（水） 3月11日（金）

3 研修内容

(1) 松尾城跡周辺及び島津氏について

吉田地区の成り立ちや、島津氏と吉田氏の勢力争いの背景、地理的要因、郷土の先人に縁のある史跡等の見学を行った。

(2) 本城花尾神社と庚申講、廃仏毀釈について

民間信仰や習俗などが複雑に組み合わさった庚申信仰や本城花尾神社について確認した。

また、廃仏毀釈の背景・歴史の説明を行った。



松尾城跡と島津歳久公招魂碑

4 職員の感想

- 貴重な史跡等は、見る視点をもって見ないと見過ごしてしまうので、興味・関心をもって見ていきたい。
- 吉田地域の先人に対する思いが、史跡一つ一つの保存や維持・管理から伝わってきた。この貴重な史跡等を、どのように子どもたちに還元できるか考えていきたい。
- 実際に行って見学したことが、学んだことと繋がり、より深い学びになった。



宝勝院跡・六字名号供養百万遍石塔

5 成果と課題

- 史跡巡りを通して、郷土の地理や歴史、文化に触れることができ、愛着を深められた。
- 数々の史跡と出会うことで、先人たちの生き方や歴史的な背景を感じるきっかけとなり、学ぶことの喜びや、郷土への誇りを高めることができた。
- 貴重な史跡を、本センター事業とどのように結び付け活用できるか模索する必要がある。

キャンプファイヤーの指導について

1 ねらい

本センターの研修プログラムであるキャンプファイヤーの実施方法や指導法について習得し、安全で効果的に実施できようにする。

2 期日

令和3年9月9日（木）

3 研修内容

(1) キャンプファイヤーの準備

- ・ キャンプファイヤーの実施にあたって、必要な道具や事前打合せのタイミング、内容について確認を行った。また、ファイヤーの設置方法について理解した。

(2) キャンプファイヤーの指導

- ・ 効果的に事前指導を行うための手順について確認を行った。その際、起こりうる事故等について認識を深めた。

(3) キャンプファイヤーの片付け及び安全指導

- ・ 片付けの手順と安全指導の徹底について共通理解を図った。



キャンプファイヤーの準備



トーチの取扱と安全指導

4 職員からの感想

- 実際の活動を通して流れを理解し、火の取扱など安全に実施するための注意事項について学ぶことができた。
- 時系列でプログラム指導を学ぶことができた。スムーズな運営に心がけたい。
- 事前の準備と指導の大切さがよくわかった。

5 成果と課題

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、キャンプファイヤーの指導に関わる機会がなかったので、実際の活動を体感することで、今後の指導に生かすことができる。
- 全職員で研修を実施したことで、様々な視点から、より安全なキャンプファイヤーの指導法について学ぶことができた。
- 学んだことを、今後の経験を積む中で意識しながら改善していくことが大切である。
- トーチの制作方法についても学ぶ必要がある。



キャンプファイヤーの指導

光学機器等の使い方Ⅱ（実践編）

1 ねらい

コロナ禍による影響のため、星空の学習に関するプログラムの実施回数が少ない現状から、5月に実施したスキルアップ研修「光学機器等の使い方」の再確認をかねて実践研修を行い、実際に望遠鏡や双眼鏡を使って、取扱い方法、注意点などの再確認を行う機会とする。

2 期日

令和3年9月13日（金）

3 研修内容

(1) 天体望遠鏡の使い方

天体望遠鏡の倍率やF値（明るさを示す指標）などについて学び、自動追尾機能や太陽投影板の装着、カメラ撮影の仕方について実際に天体望遠鏡を設置して確認した。

(2) 双眼鏡の使い方

双眼鏡の使い方について実際に再確認し、双眼鏡を活用した星の観察（プレアデス星団、二重星など）について共通理解を図った。

4 職員の感想

- 5月に光学機器の使い方についての研修を行ったが、時間の経過とともに細かいことを忘れており、再確認できるよい機会だった。
- 実際に使用していくなかで疑問に思っていたことが確認できてとてもよかった。
- 自主的に時間を見つけて天体望遠鏡を出して、設置から星の観察までやる必要性を感じた。

5 成果と課題

- コロナ禍の影響で以前に比べプログラム（星の観察）の利用数が減り、職員の経験値が下がっていたため、とても有意義な研修となった。
- 実際に使用の手順を確認していくことで、その場で質問ができ疑問点の解決ができた。
- 定期的に天体望遠鏡を設置し、使い方の確認をしながらスキルアップを図る機会を作る必要がある。



研修資料



双眼鏡による観察の様子

5 スキルアップ研修を終えて

利用者が「青少年研修センターを利用して良かった。」と感じ、「また利用したい。」につながるような魅力ある施設になることを目標の一つとして、質の高い研修活動を提供できるよう、本年度も計画的に、全体研修、新任者研修、スキルアップ研修、主催事業事前研修等を重ね、職員の資質向上に努めた。

昨年度に引き続き、本年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用団体のキャンセルが続く時期があった。そのため、年度当初の研修計画以外にも時間設定を工夫してスキルアップ研修特別編と位置付けて実施したり、その時に必要であると思われた研修を急遽取り入れて実施したりした。

スキルアップ研修は、本センター職員が講師を担当して展開するため、割り当てられた研修内容に戸惑いや不安を抱く職員もいたが、それぞれの研修内容について自ら学びを深めながら資料を準備していく中で、不得意が得意に変わり、研修当日は自信をもって進めていた。そのため、担当した職員が、「学ぶ機会を得ることができて良かった。」と感じているのも事実である。この職員の学ぶ姿勢が相乗効果となり、回数を重ねるごとに、研修の質がレベルアップしていった。

スキルアップ研修を通しての職員の感想

- 道具の使い方や樹木の配置、ポスターの作成、新規プログラムの開発に向けての指導法の研修など、幅広く研修を行うことができた。
- 特に担当になったスキルアップ研修は、自分自身の学びになり、研修を深めるよい機会になる。全員のスキルアップにつながるので大切にしたい研修である。
- 担当が講師となって行うことで、様々なスキルがアップした。今後、担当が周囲を驚かせるくらいの内容を指導できるような研修にする必要がある。
- 様々な研修があり、研修を行う側としても、受ける側としても非常に勉強になった。
- プログラム指導に入る回数が減少しているので、指導内容を忘れてしまいがちだったが、再確認する機会となりよかった。
- 知らない分野や苦手な分野にも積極的に向き合い、関与することで専門職員として知識や技能を高めることができた。



【新任者研修】



【スキルアップ研修】



【新規プログラム開発研修】

右に示したグラフは、利用団体が退所前に記入するアンケートから抽出したものである。(令和4年2月末現在、186団体のアンケートの集計結果)

質問項目の「センター職員の指導・対応」については、「満足」と回答した団体が98.9%で昨年度（アンケート回答190団体）よりも2.1ポイント向上している。「利用になっての満足度」は、「満足」と回答した団体が96.2%で昨年度よりも2.0ポイント向上している。これらの結果が「次回も利用したいか」で「ぜひ利用したい」と回答した96.2%につながったと考える。この値も、昨年度より9.2ポイントの向上が見られた。

これらのアンケート結果から、本センターの職員が、利用者の立場に立った対応に心掛け、さらにスキルアップ研修をはじめとする様々な研修に真摯に向き合い、互いに研鑽したことで資質向上が図られ、利用団体の満足度の向上に結びついたと言える。

しかし、青少年社会教育施設の業務は多岐にわたり、さらには新型コロナウイルス感染症の影響で利用者側の活動プログラムの選択に偏りが見られる状況もあったため、研修を深め切れていない分野もある。また、「利用になっての満足度」で「やや満足」と回答した利用団体が3.8%あり、満たされていないものがある状態で退所されている。

これらのことを踏まえ、利用者が満足してもらう手立てをさらに追求しつつ、青少年研修センターの魅力を最大限に発揮し、利用者「青少年研修センターでなければ！」と言ってもらえるよう、職員一丸となって魅力ある施設運営に努めていきたい。

